

佳作

プールなんてキライ

埼玉県 加須市立騎西小学校四年 白石 桜乃香

わたしの学校の四年生に、ふしうきが出来ない人が、一人います。それはわたしです。

二年生の時に、プールでおぼれたので、泳げなくなりました。三年生の時も出来なかったけれど、ほっときました。そもそもプールの事を考えたくない。わたしの他にも泳げない子もいました。四年生になっても、やっぱり泳げませんでした。ただ、泳げなかった子が、春休みに練習して、泳げるようになっていました。泳げないのは、わたし一人になりました。くやしきはなかったけれど、悲しかったです。「プールで練習しようか。」

お母さんにそう言われて、行きたくなくてしかたなかったけれど、しぶしぶ練習することにしました。

さいしょはビート板を使って泳いで、なれてきたら、お母さんの手の上に手をのせて泳ぎました。泳

いでいる時に、時々お母さんが手をはなすのがこわかったので、手をずっとにぎっていました。通い始めて四日たっても手をにぎっていたら、お母さんがキレました。わたしもわめきちらしました。泣きました。

「どうしてほしい？」

冷静になったお母さんが、聞いてきたので、泣きやんだわたしは、

「おなかと、うでをささえてくれれば出来る。」

と言いました。おなかとうでをささえてもらい、わたしはプールから足をはなしました。お母さんは、ずっと手をはなしました。うけました。お母さんがすぐ手をもどすと言っていたけれど、信じられなかった。わたしはすぐ、立ってしまいました。

でも、うけました。プールから足をはなし、一人でまっすぐうけました。そのあとは、かってにバタ足までやっていました。おばあちゃんにも見せたら、よろこんでくれたので、またバタ足をやりました。

わたしは、ゆう気をだせば、何でもがんばれると思います。泳ぐ事からにげていた二年間をもったいないと思いました。今は五メートルしか泳げないけれど、だんだん泳げるきよりのばしていききたい

です。

そういうわけで今、わたしの学校の四年生で、ふ
しうきが出来ない子は、一人もいません！